

# 新機一転

東海財務局長  
齋藤 通雄氏



1963年1月生まれ、東京出身、58歳。87年3月、東大法学部卒、同4月、大蔵省(現財務省)入省。98年、理財局国債課課長補佐、2009年、主計局調査課長、11年、理財局国債企画課長などを経て13年、金融庁に異動。総務企画局市場課長、同局参事官などを歴任。16年、(株)産業革新機構に取締役CFOとして出向。18年、組織改正で(株)産業革新投資機構取締役CFOに。21年7月から現職。

## ベンチャー企業支援 官民ファンドの経験生かしたい

**【初めての名古屋勤務】** 東海4県での勤務も初めてで、そもそも沖縄に税務署長で1年勤務した以外は国内では東京勤務ばかりでした。当地区の当初のイメージは、トヨタ自動車を中心とした自動車産業、モノづくりの中心地。着任してからのイメージは、人も経済もポジティブでフレンドリー。コロナ禍で全国的に大変な状況ですが、その中で当地区は製造業が比較的早く業績が回復し、元気です。名古屋の夏の暑さと道の広さは聞いていましたが、暑さはともかく、道路は確かに広い。また、コンビニや個人商店などに駐車場があることにも驚きました。東京、大阪にはないことでクルマの街・名古屋ならではの、と感じました。

**【官民ファンドの経験】** これまでで印象に残っている業務は、直前まで5年勤めた官民ファンドです。政府系投資ファンドですが、株式会社で民間企業的。上司のCEOは民間の方で、企業の社長の考え方や、企業経営・マネジメントのあるべき姿などを経験し、勉強になりました。

**【郵政民営化の思い出】** 2つ目は、小泉内閣の

時の郵政民営化準備室です。看板政策だったので、辞令交付が官邸で行われ、小泉純一郎総理から直接受け、発足式にも総理が来て職員全員に握手して「よろしく頼む」と言われました。また改革案も官邸の総理執務室に入って説明しました。例のないことで印象に残っています。

**【ベルリンの壁崩壊】** ドイツに2年間留学した時は、ちょうどベルリンの壁崩壊から統一の時期でした。西ドイツにいたのですが、周りの市民は嬉しさ半分、戸惑い半分でした。

**【名古屋メシ】** 休日は、コロナ禍ですが、近くの徳川園に散歩に行ったり、名古屋メシを家族と食べに行ったりしています。名古屋のウナギは、いったん蒸す関東と違って直接焼くのでカリッとしていいんじゃないですか。

**【国とのパイプ役に】** 地元の皆さんと国とのパイプ役を果たしてお役に立ちたい。また、当地区はベンチャー企業が活発とは言えないと聞いています。前職の官民ファンドでベンチャー企業支援の経験・知見があるので、お手伝いができたらと思っています。